



# みゆき

小松市立御幸中学校

学校だより

NO. 18

令和2年10月23日

文責：校長 河南光昭

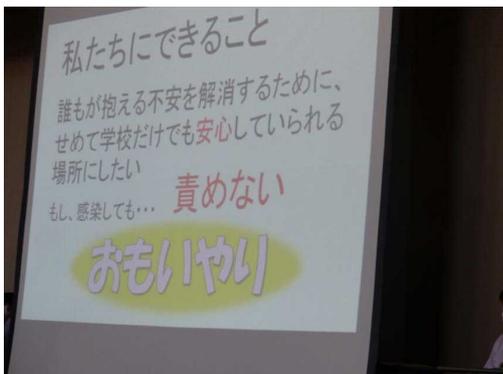
## 任命式、生徒総会、そして・・・

10月21日に、任命式が行われました。右の写真のように、後期の生徒会執行部を代表して生徒会長が、後期の学級役員を代表して3年リーダー会長がそれぞれ任命書を受け取りました。後期の一役を担った人たちは、責任感を持って取り組んでくれるものと信じています。また、その人たちの仕事を、周囲の人たちが「認め、支え、励まし、手伝い」ながら、「ありがとう」の気持ちを伝えられたら、どんなにか素敵なことだろうと思います。



その後生徒総会へと移りましたが、まず前期の執行部が登壇して前期の活動報告並びに決算を報告しました。会場からの質問はほとんど出ませんでした。前期の執行部並びに委員会の活動はとても良かったと思います。実際、休校明けから最近まで、外部のお客様からは、「御幸中は生徒会活動がとても盛んなんですね。」というお言葉をよくいただきます。廊下・階段等の掲示物から判断されてのことだと思いますが、私の目から見てもユニークな取り組み（ラジオ放送、鍵かけチェック等）であったり、一貫性のあるスローガン（生徒会年間テーマ：「ファンファーレ」・後期3年リーダー会活動目標：「クレッシェンド」・後期2年リーダー会活動目標：「輪音 ドミソ」等）であったり、昨年度にもまして、あえて言うならコロナ禍だからこそ、それぞれの担当部署が「何ができるか」を真剣に考え、工夫し、実践していると思います。ぜひ、後期の生徒会活動や係活動が、継続し、さらに発展していくことを願っています。

総会が終了すると、「執行部からのお願い」があります、と副会長が声を発しました。コロナ感染症に対して「誰かにうつってしまうかも…」「自分のせいで学校が休みに…」「体調不良の時は登校してもいいか…」「感染の拡大につながるのでは…」といった不安を誰しも抱いているのではないかと思います。とりわけ「もし感染して（濃厚接触者になって）周囲から避けられたり、誹謗中傷されるのではないか」という不安が大きいのではないかと思います。しかし、この疾患に対して認識すべきことは、「予防対策を十分に行っても感染するときは感染してしまう疾患」であり、「いつ、どこで、だれが感染してもおかしくない疾患」ということでもあり、それは「誰が悪いわけでもない」ということを訴えました。



それを踏まえて執行部から「誰もが抱える不安を解消するために、せめて学校だけでも安心していられる場所にしたい。」「もし感染しても...『責めない』思いやり」が提唱されました。大変素晴らしい提言でした。この提言は全員の起立賛成多数で承認されるとともに、自然と拍手が沸き上がり、温かい空気が会場に流れたように感じました。